

# 古代



日本の主な出来事	西暦	主な貨幣関連事項	世界の主な出来事
600 遣隋使派遣 604 憲法十七条の制定 607 小野妹子を隋に派遣			
飛鳥時代	621 新羅がはじめて入貢		618 〈中〉隋、滅亡 唐、成立 621 〈中〉唐、開元通宝発行
	630 遣唐使派遣		
	645 大化改新		
	663 白村江の戦い 672 壬申の乱		
	694 藤原京に遷都	683 銀銭の使用を禁止し、銅銭を使用することとする 7世紀後半 <b>富本銭製造</b> 699 鑄銭司を置く	
	701 大宝律令完成	708 <b>武蔵国より自然銅が献上される</b> 催鑄銭司を置く <b>和同開珎(銀銭、銅銭) 発行</b>	676 〈朝〉新羅、朝鮮半島を統一 698 〈中・朝〉渤海国、建国
	710 平城京に遷都	709 銀銭の私鑄を禁止 銀銭を廃止し、銅銭に一本化	
	711 『古事記』完成	710 銀銭の使用を禁止 711 穀6升=銭1文と定める 蓄銭叙位法および私鑄銭の嚴罰を定める	
	712 養老律令完成 720 『日本書紀』完成	712 旅行者に銭貨をもたせる 税(調庸)の布と銭貨の交換基準を定める(布1常=銭5文)	
	奈良時代	727 渤海使はじめて来日 729 長屋王の変	721~722 銭貨の価値を切り下げる 税(調)を銭貨で納めさせる地域を拡大
743 磐田永年私財法		749 <b>陸奥国よりはじめて国産の金が献上される</b>	
752 大仏開眼供養 753 鑑真来日 757 養老律令施行		758 藤原仲麻呂(恵美押勝)に、銭貨製造の権利を与える	
764 藤原仲麻呂(恵美押勝)の乱		760 <b>開基勝宝(金銭) 発行</b> <b>大平元宝(銀銭) 発行</b> <b>万年通宝(銅銭) 発行</b> 765 <b>神功開宝 発行</b>	
770 頃 『万葉集』完成 784 長岡京に遷都		779 和同開珎・万年通宝・神功開宝の3銭を同価値とする	

銭貨の製造開始

国家による本格的な銭貨発行



青字：貨幣に関する社会状況

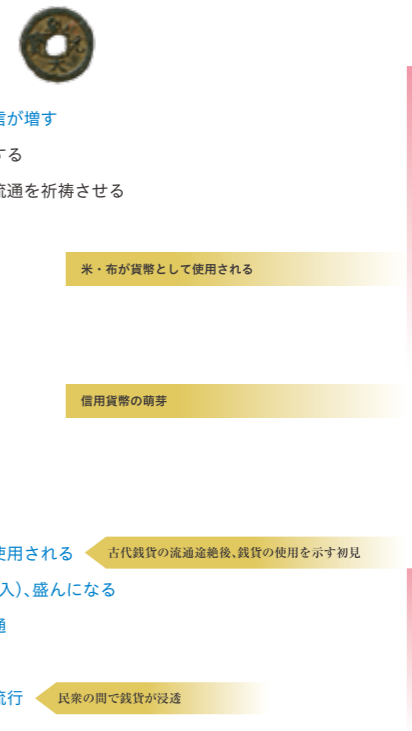
〈中〉= 中国 〈朝〉= 朝鮮

日本の主な出来事	西暦	主な貨幣関連事項	世界の主な出来事
794 平安京に遷都 797 『続日本紀』完成	796 <b>隆平永宝 発行</b>		
838 最後の遣唐使派遣 840 『日本後紀』完成	798 蓄銭を禁止 818 <b>富寿神宝 発行</b> 835 <b>承和昌宝 発行</b>		
869 『続日本後記』完成 新羅の海賊、博多に入寇	848 <b>長年大宝 発行</b> 859 <b>饒益神宝 発行</b> 867 畿外の蓄銭を禁止		
平安時代	894 遣唐使を廃止	870 <b>貞観永宝 発行</b> 890 <b>寛平大宝 発行</b> 907 <b>延喜通宝 発行</b>	907 〈中〉唐、滅亡 五代十国時代 916 〈中〉遼、建国 918 〈朝〉高麗、成立 926 〈中・朝〉渤海国、滅亡
	919 渤海使の来日	958 <b>乾元大宝 発行</b>	936 〈朝〉高麗、朝鮮統一 960 〈中〉宋(北宋)、建国
	935~941 承平・天慶の乱	984 <b>人々の銭貨への不信が増す</b> 10世紀後半 銭貨の使用を強制する 十五大寺に銭貨の流通を祈禱させる	990 頃(中)北宋、交子(紙幣)が流通 1008 〈中〉北宋、祥符元宝ほか 〈中〉銭貨が盛んに製造される
	1016 藤原道長、摂政に就任 藤原氏全盛 1019 刀伊の入寇 1051 前九年の役 1083 後三年の役 1086 院政のはじまり	米・布が貨幣として使用される 信用貨幣の萌芽	
	1156 保元の乱 1159 平治の乱	1150 <b>土地売買に銭貨が使用される</b> 古代銭貨の流通途絶後、銭貨の使用を示す初見 12世紀半ば <b>日宋貿易(銭貨の輸入)、盛んになる</b> <b>渡来銭が盛んに流通</b>	1115 〈中〉金、成立 1125 〈中〉遼、滅亡 〈中〉北宋銭の国外流出始まる 1127 〈中〉南宋、成立
	1167 平氏全盛 1185 平氏滅亡	12世紀後半 <b>この頃「銭の病」が流行</b> 民衆の間で銭貨が浸透	

銭貨の衰退

国家による銭貨発行の停止

渡来銭の流入開始



青字：貨幣に関する社会状況

# 中世



日本の主な出来事	西暦	主な貨幣関連事項	世界の主な出来事
1156 保元の乱	1150	土地売買に銭貨が使用される	1125 〈中〉遼、滅亡
1159 平治の乱	12世紀半ば	日宋貿易(銭貨の輸入)、盛んになる 渡来銭が盛んに流通	1127 〈中〉南宋、成立
1167 平氏全盛	12世紀後半	この頃「銭の病」が流行	1190年頃 〈中〉金、交鈔発行
1185 平氏滅亡	1193	朝廷、銭貨の使用を禁止	1194、1207 〈中〉金、銭貨流通禁止・蓄銭を制限
1192 源頼朝、征夷大将軍となる	1226	鎌倉幕府、銭貨の使用を認める	1234 〈中〉金、滅亡
1221 承久の乱	1262	幕府、沽価法・利子法を定める	1260 〈中〉モンゴル、交鈔発行
鎌倉時代 1232 御成敗式目(貞永式目)制定	1263	幕府、切銭を禁止	1270年代 〈中〉モンゴル、鈔専用化、銭貨使用停止
1274 文永の役	13世紀後半	年貢の代銭納化が進む 市の増加、商品流通の発達	1271 〈中〉元、成立
1281 弘安の役	14世紀	為替(割符)の発生	1279 〈中〉南宋、滅亡 元、中国全土を支配
1297 永仁の徳政令	1333~1335	後醍醐天皇、建武の新政で紙幣・銭貨発行を計画、実現せず	1287 〈中〉元、至元通行宝鈔を発行
1333 鎌倉幕府滅亡	15世紀前半	遠隔地取引拡大で為替の利用が盛んになる 宋銭や明銭(永楽通宝等)が通用	1368 〈中〉明、成立
1338 足利尊氏、征夷大将軍となる	1485	周防国大内氏、撰銭令を出す (排除すべき特定の銭貨以外は等価値使用)	1375 〈中〉明、大明通行宝鈔を発行 鈔法制定以後、しばしば金銀の使用が禁止される
1392 南北朝の合体	1500~1513	室町幕府、毎年撰銭令を出す	1392 〈朝〉高麗、滅亡 李氏朝鮮、成立
1404 明との勘合貿易の開始	16世紀前半	石見銀山の産出量の増加(灰吹法の採用)	1408/1411 〈中〉明、永楽通宝発行
1467~77 応仁の乱	1542~1569	幕府、戦国大名しばしば撰銭令を出す	1430年代 〈中〉江南で租米の銀での納付始まる(江南折糧銀)
1523 寧波の乱	1550頃	武田氏の領国で甲州金がつくられる	15世紀後半 〈中〉撰銭行為盛んに行われる 〈中〉東南の沿海部で私鑄銭盛んに製造される
1543 鉄砲伝来	1569	織田信長、撰銭令を出す (銭種間の交換比率を示し、悪銭の流通を認める。 金・銀・銭貨の比価を提示)	1540年代 〈中〉日本・ヨーロッパの銀が流入
1549 キリスト教伝来 (フランシスコ・ザビエル来日)			1549 勘合貿易を廃止
1563 ルイス・フロイス来日			
1573 室町幕府滅亡			

## 渡来銭の流入開始

中国から北宋銭の流出始まる

古代銭貨の流通途絶後、銭貨の使用を示す初見



民衆の間で銭貨が浸透

## 渡来銭の浸透

13世紀を通じて、銭貨が絹・布・米に代わり貨幣として使用されるようになる

大量の銭貨が中国から東アジア各地へ流出

13世紀後半、埋蔵銭がみられるようになる

14世紀、銭貨がさまざまな物の価値尺度となる

## 商品経済の発展と銭貨需要の増大

中国国外への銭貨の持ち出し原則禁止

14世紀後半、大量の埋蔵銭が多くみられる

〈中〉明は当初、銭貨と紙幣を併用させる

## 撰銭の発生

私鑄銭・模鑄銭が流通、撰銭行為が盛んになる

戦国大名による金・銀鉱山の開発が盛んに行われる

## 金貨・銀貨の登場

中国から日本への銭貨流入減少

青字：貨幣に関する社会状況

〈中〉= 中国 〈朝〉= 朝鮮

# 近世

日本の主な出来事	西暦	主な貨幣関連事項	世界の主な出来事
室町時代 安土桃山時代	1543	石見銀山の産出量の増加(灰吹法の採用) 幕府、戦国大名しばしば撰銭令を出す	1540年代(中)日本・ヨーロッパの銀が流入
	1549	織田信長、撰銭令を出す (銭種間の交換比率を示し、悪銭の流通を認める。 金・銀・銭貨の比価を提示) 豊臣秀吉、天正大判・各種の御公用銀を製造	
	1569	徳川家康、武蔵墨書小判、駿河墨書小判を製造	
	1582	家康、額一分金を製造	
	1584	伊勢山田地方で山田羽書が流通 家康、慶長大判、慶長小判、 慶長一分金、慶長丁銀、慶長豆板銀 発行 宿駅間・川渡しの駄賃を公定(永楽銭1枚=鑄銭6文通用)	
	1592~93	永楽銭1枚=鑄銭4枚通用を命じる 慶長通宝 発行 鑄銭の通用を命じる(関東) 永楽通宝、通用停止	
	1597~98	天正大判(大仏判) 発行 金・銀・銭相場の公定 金1両=銀50匁=京銭(鑄銭)4貫文(=永楽通宝1貫文)	
	1600	全国に撰銭令 元和通宝(銀銭・銅銭) 発行	
	1601	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1602	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
江戸時代	1603	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	1602 (蘭)東インド会社(VOC)設立
	1604	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1606	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1608	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1609	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1612~1613	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1616	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1617	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1636	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1641	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	1643	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	1661 (瑞)ストックホルム銀行券発行
	1646	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1661	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1668	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1670	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1671	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1672	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1673	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1674	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1675	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	1676	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	1694 (英)イングランド銀行設立
	1677	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1678	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1679	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1680	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1681	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1682	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1683	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1684	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1685	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	1686	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	1863 (米)ナショナルバンク制度成立
	1687	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1688	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1689	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1690	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1691	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1692	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1693	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1694	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	
	1695	幕府、東海道などの宿駅に幕府所持の古銭を配布 寛永通宝 発行 銭貨の私鑄を禁止	

日本の主な出来事	西暦	主な貨幣関連事項	世界の主な出来事
江戸時代	1707	藩札の発行を禁止 宝永通宝十文銭 発行 宝永永字丁銀、宝永小判、宝永一分金、宝永三ツ宝丁銀、 人參代往古銀、宝永正字丁銀 発行 宝永四ツ宝丁銀 発行 正徳小判、正徳一分金、 正徳丁銀、正徳豆板銀 発行 享保小判、享保一分金 発行	1774 (英)金本位制移行 1789 (仏)アッシニア紙幣
	1708	享保大判 発行 享保大判1枚を金7兩2分に公定(初の大判公定相場) 藩札禁止令を一部解除	
	1710	元文小判、元文一分金、 元文丁銀、元文豆板銀 発行 寛永通宝(鉄銭) 発行 藩札の発行制限をはじめめる	
	1711	明和五匁銀 発行 銀相場にかかわらず小判1両=明和五匁銀12枚とする旨命じる 寛永通宝四文銭(真鍮銭) 発行 明和南鐐二朱銀 発行 小判1両=南鐐二朱銀8枚とする旨命じる	
	1714	南鐐二朱銀の製造を停止し、丁銀・豆板銀を追加製造する	
	1715	米札の新規発行、発行再開を禁止	
	1725	文政真文二分金 発行 文政小判、文政一分金 発行 文政丁銀、文政豆板銀 発行 文政南鐐二朱銀、文政一朱金 発行	
	1730	文政草文二分金 発行 文政南鐐一朱銀 発行 天保二朱金 発行 天保通宝 発行 天保五兩判、天保小判、天保一分金、 天保丁銀、天保豆板銀 発行 天保大判 発行	
	1736	嘉永一朱銀 発行 1ドル銀貨=通用銀16匁=一分銀1枚とする 安政二分金 発行	
	1739	安政小判、安政一分金、安政二朱銀 発行	
幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	1755	万延大判、万延小判、万延一分金、 万延二分金、万延二朱金 発行 寛永通宝四文銭(鉄銭) 製造 文久永宝四文銭 製造	1863 (米)ナショナルバンク制度成立
	1765	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1767	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1768	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1772	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1778	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1788	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1798	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1804	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1808	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	1817	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	1867 幕府札 発行
	1824	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1828	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1832	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1835	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1837	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1842	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1854	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1859	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	
	1860	幕府による金貨・銀貨・銭貨の統一(三貨制度の成立)	

# 近代

	日本の主な出来事	西暦	主な貨幣関連事項	世界の主な出来事		日本の主な出来事	西暦	主な貨幣関連事項	世界の主な出来事		
江戸時代	1853 ベリー来航 1854 日米和親条約(神奈川条約)	1854	嘉永一朱銀 発行 1ドル銀貨=通用銀16匁=一分銀1枚とする		明治時代	1883 国立銀行条例改正 1884 兌換銀行券条例公布 1885 日本銀行券(兌換銀券、「大黒札」)発行 1886 政府紙幣の銀貨兌換開始 1888 江戸時代金銀貨の交換期間満了 1889 白銅貨発行 1890年代 銀価低落、外国為替相場下落 1891 天保通宝通用停止	1883 1884 1885 1886 1888 1889				
	1857 下田条約 1858 日米修好通商条約 蘭・露・英・仏と修好通商条約を締結	1857 1857 1858	安政二分金 発行 <b>安政の改鑄</b> 下田条約でアメリカと貨幣の同種同量交換を約束 1858 米蘭露英仏との修好通商条約で貨幣の同種同量交換を協定			1889 大日本帝国憲法発布 1894~95 日清戦争	1889 1890年代 1891	銀価低落、外国為替相場下落 天保通宝通用停止			
	1858~59 安政の大獄 1859 開港	1859	<b>安政小判、安政一分金、安政二朱銀</b> 発行 洋銀と安政二朱銀の交換開始 外国側の抗議により1ドル銀貨を一分銀3枚に替えることを約束 <b>ハリス、幕府に金銀比価是正と「極印付洋銀」の流通を勧告</b> 安政小判、安政一分金、安政二朱銀の製造を停止 洋銀の通用と納税に使用することを認める <b>金貨流出</b> 洋銀「改三分定」の流通を布達			1902 日英同盟締結 1904~05 日露戦争 1911 関税自主権回復	1896 1897 1898 1899	日本銀行本店を現在地に新築移転 国立銀行、私立銀行に転換(~1899年) 貨幣法公布 <b>金本位制</b> 採用(金0.75g=1円) 青銅貨発行 政府紙幣、国立銀行紙幣通用禁止 <b>日本銀行券(金貨兌換券)</b> 発行	1897 1899	1897 〈露〉金本位制移行	
	1860 桜田門外の変	1860	<b>万延大判、万延小判、万延一分金、万延二分金、万延二朱金</b> 発行 <b>万延の改鑄</b> 寛永通宝四文銭(鉄銭)発行 金銀比価が外国と同様となり、金貨流出止まる			1918 米騒動各地に広がるシベリアに出兵	1900 1917	1900 〈米〉金本位制移行 1917 金本位制停止 小額政府紙幣発行	1900 1917	1900 〈米〉金本位制移行 1913 〈米〉連邦準備制度発足	
	1863 薩英戦争	1860年代 1863	各地で藩内に使用を限定した銭貨を発行 文久永宝四文銭 発行	1863 〈米〉ナショナルバンク制度成立		1923 関東大震災	1917 1927	1917 金本位制停止 小額政府紙幣発行 1927 <b>昭和金融恐慌</b> 乙二百円券(「裏白券」)発行	1913 1927	1913 〈米〉連邦準備制度発足 1914~18 第一次世界大戦 1914 〈英〉金本位制停止 1917 〈米〉金本位制停止 1919 〈米〉金本位制に復帰 1923 〈独〉 Renten銀行設立(インフレ収束)	
	1864 禁門(蛤御門)の変、第1次長州征討 四国艦隊(英仏米蘭)、下関砲撃 1865 条約勅許 1866 薩長連合成立、第2次長州征討 改税約書調印 1867 徳川慶喜、大政奉還 王政復古の号令	1864 1865 1866 1867	幕府札 発行 丁銀・豆板銀の通用停止 太政官札発行 府県札発行 造幣局設置 為替会社紙幣発行 民部省札発行			1931 満州事変 1933 国際連盟脱退 1937~45 日中戦争	1927 1930 1931 1932 1933 1937	1927 <b>昭和金融恐慌</b> 乙二百円券(「裏白券」)発行 1930 金本位制復帰 1931 金本位制離脱 1932 長期国債の日本銀行引受開始 1933 貨幣法改正(ニッケル貨発行) 1937 軍票発行	1927 1930 1931 1932 1933 1937	1927 1929 1931	1927 〈独〉 Renten銀行設立(インフレ収束) 1929 〈米〉 ニューヨーク株式市場大暴落(世界恐慌のはじまり) 1931 〈英〉 金本位制離脱
	1868~69 戊辰戦争	1868	新貨条例 公布(金1.5g=1円) <b>円の誕生</b> 紙幣司設置 円単位の金貨・銀貨、大蔵省兌換証券発行	1871 〈独〉 金本位制移行		1941~45 太平洋戦争	1938 1939	1938 臨時通貨法公布(小額紙幣、アルミニウム貨等発行) 1939 明治・大正時代の日本銀行券(除1円)通用停止	1938 1939	1938 1939	1938 1939
	1869 版籍奉還	1869	開拓使兌換証券発行 <b>新紙幣(「明治通宝札」)</b> 発行 国立銀行条例公布			1946 日本国憲法公布	1942 1943 1944 1945 1946	1942 日本銀行法施行、名実ともに管理通貨制度へ移行 1943 日本銀行券の兌換文言がなくなる 内国為替集中決済制度実施 1944 錫貨、小額日本銀行券発行 陶貨製造(不発行) 1945 <b>最初の千円券(甲千円券)</b> 発行 1946 新円切替え実施(金融緊急措置令、日本銀行券預入令) <b>証紙貼付銀行券</b> 流通(同年10月末限り通用停止)	1942 1943 1944 1945 1946	1942 1944 1946	1942 1944 1946
	1871 廃藩置県	1871	<b>国立銀行紙幣(旧券)</b> 発行 銅貨発行、江戸時代の金貨・銀貨通用停止 1876 国立銀行条例改正 最初の私立銀行開業 1877 <b>国立銀行紙幣(新券)</b> 発行 西郷札発行 1878 貿易銀、国内無制限通用 1879 藩札・府県札の交換終了 1880 横浜正金銀行開業 1881 改造紙幣(「神功皇后札」)発行 松方財政開始			1952 サンフランシスコ平和条約発効 国際通貨基金(IMF)加盟	1946 1947 1948 1949 1953	1946 日本国憲法公布 1947 復興金融庫設立 1948 小額政府紙幣の通用停止 1949 円の単一為替相場設定(1ドル=360円) 1953 円未満端数通貨の通用禁止(小額通貨整理法)	1946 1947 1948 1949 1953	1946 1947 1948 1949 1953	1946 〈ハンガリー〉 空前の桁数のデノミネーション実施
	1872 新橋・横浜間の鉄道旅客輸送開始 1873 地租改正条例公布 1876 金庫公債証書発行条例公布 1877 西南戦争	1872 1873 1876 1877	1872 開拓使兌換証券発行 <b>新紙幣(「明治通宝札」)</b> 発行 国立銀行条例公布 1873 <b>国立銀行紙幣(旧券)</b> 発行 銅貨発行、江戸時代の金貨・銀貨通用停止 1876 国立銀行条例改正 最初の私立銀行開業 1877 <b>国立銀行紙幣(新券)</b> 発行 西郷札発行 1878 貿易銀、国内無制限通用 1879 藩札・府県札の交換終了 1880 横浜正金銀行開業 1881 改造紙幣(「神功皇后札」)発行 松方財政開始			1952 サンフランシスコ平和条約発効 国際通貨基金(IMF)加盟	1946 1947 1948 1949 1953	1946 日本国憲法公布 1947 復興金融庫設立 1948 小額政府紙幣の通用停止 1949 円の単一為替相場設定(1ドル=360円) 1953 円未満端数通貨の通用禁止(小額通貨整理法)	1946 1947 1948 1949 1953	1946 1947 1948 1949 1953	1946 〈ハンガリー〉 空前の桁数のデノミネーション実施

## 開港後の通貨の混乱

## 金本位制の採用

## 管理通貨制度への移行

## 円の導入と日本銀行の設立